

50.「子育て文化の喪失」～利益優先社会の弊害～

2013年7月1日 社会福祉法人 江刺保育園

私の記憶によれば人は400万年前頃から自立歩行が始まったようです。当時は生きるために、食糧を求めて彷徨いました。男と女が出会い新しい命が生まれ、その子が成長し、また同じ営みを連綿として続け今に至っています。人は長い狩猟生活から、穀物を栽培する農業という生産手段を見つけ、より多く、より早く生産を行うために工業が発達し、生産物をより遠く、より広範囲に運ぶために様々な移動手段が発達しました。短時間で大量に生産するための施設や膨大なエネルギー発生施設を建設してきました。その過程の中から、人間は個人よりも集団での力を活用できるようになりました。人間の組織は共同体となり村や町となって、より強固な都市となりそして国家が形成されました。その原動力は、安定的に食物を獲得できる生活環境でした。その発達を、私たちは文明と呼んでいます。共同体によって生み出された文明は、その中であるいは外でたびたび起きる争いが戦争となりました。戦争に至る課程は国家がより多くの利益を得ること、より快適な生活をするという欲望なのだと思います。戦争は今も続いています。国家の利己的な思いがなくなる限り人は戦争を続けるのかもしれない。

原始から現代に至るまで、人は誕生と、死を体験してきました。必ず人は死ぬことを誰でも知っています。父として、母としての新しい命の誕生は、大きな喜びを本能として持っています。また、身近な人の死は生きている人たちに悲しみを体験させます。そのような生と死の長く引き継がれてきた体験によって自分の子どもの命を守るという意思と覚悟が私たちに備えられました。人間は歴史体験の中から、命の尊さを獲得し、限られた時間を生きるためにどのように生きるのが幸福であるのか、より良く生きることの本質を求めてきました。そして、お互いの命を大切にすることを「愛し合う」という心が人間独自の精神文化として創造されたのです。この愛し合う精神環境が家族という生活単位の中で育まれたのです。

しかし、命と文明を比較した時、人間は「命の大切さ」よりも「文明の発達」の方を選んだのです。文明の発達は尊い命を犠牲にして生み出されています。現代社会でもより多くの利益が得られることが最優先です。ですから尊い命と家族関係を破壊するような戦争が起きるのです。また大量の核のゴミを生み出す原子力発電を行っています。この核のゴミは地上ではどこにも保管できません。膨大な資金を掛けて地下奥に保管場所を作り半永久的に管理しなければならないのです。原子力エネルギーは人間の生活圏の中では使用できないということは明らかなのですが、これを止めないのはどうしてなのか。核兵器をもつという危険な欲望がそうさせているからなのでしょう。いずれにしてもより多くの利益をもたらすということが今の社会にとっては最優先なのです。

人間の精神文化は残念ながら発達していません。文明のよって人間自ら生み出した物が、私たちの生活を乱し、麻薬のように私たち自身の体と心を蝕んでいます。人の生き物としての能力は急激に衰え、お互いの人間関係は家族の中でも破綻しています。命の大切さを感じる感覚が麻痺し喪失してしまっているとしか言えません。人は子どもを育てることによって精神を進化させてきました、その子育てに苦しさを感じています。本来大きな喜びであるはずの子どもとの関わり合いに私たちは苦痛を感じ、その大切な行為を放棄しようとしていないでしょうか。私たちの社会の進むべき方向性は明らかに本来の正しい道から外れているようにしか見えません。生き物として子育ての本能を取り戻さなければなりません。



《さけの味噌マヨ焼き 材料》

さけ：4切
なす：1/2本
マヨネーズ：大さじ1
みりん：小さじ1/2
チーズ：少々
みそ：小さじ1

《作り方》

- ① なすはイチョウ切にして、マヨネーズとみりん、味噌で合わせておく
- ② ホイルにさけを置き、①を上をかけ、チーズも載せオープン（180℃）で10～15分焼く。

